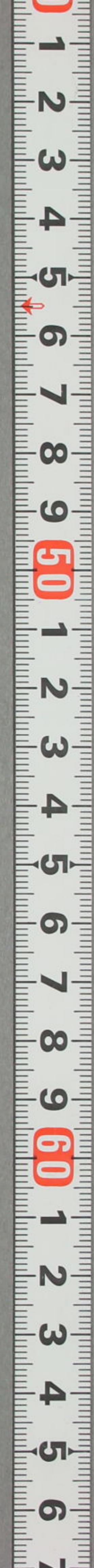


家門用集

下

9
3583
3止



門 〇 〇
號 3583
卷 3

昭和九年
九月二十四日
購求

家内用心集卷下

十五ヶ條之部

可人の家小形。あき人。勤しむ。風俗
俗。そて。目。に。眩。ま。く。い。る。人。多。く。是。の
者。は。あ。風。俗。あ。く。して。其。家。乃。為。る
ま。く。ぼ。ろ。は。我。身。を。う。た。ふ。て。然。志。さ。る
ゆ。き。り。き。よ。く。い。は。赤。子。の。う。ら。い。て。打。入。ん。と
と。ら。は。井。ぬ。く。死。と。ら。事。と。志。さ。れ。ば。也
志。さ。ら。ぬ。側。より。抱。と。ら。ぬ。落。入。る。は。家。と
ら。ぬ。れ。ば。教。育。と。ら。ぬ。そ。の。あ。く。風。俗。紙

家内用心集

家内用心集

とやうな心。改められた。不義に落ちくびれて
男をよかなく多し。此事と風習い
また片言は。小家の教十五ヶ条書つ
祢。つと人々。あつた物なり。それとよく。是知
多。は。ひら。れた。風俗を。て。人。よ。ら。あ
ら。事。さ。い。ゆ。の。げ。ん。と。中。と。家
との。男。と。ね。ま。んと。あ。ら。い

○家内制訓十五ヶ条

一毎朝早起内外共掃除奇素可仕度

毎朝ては。早起い。佛神い。り。給。し。て。ち。獲。した
ま。い。り。好。ど。横。難。と。の。れ。福。わ。り。又。け。が
ら。り。ま。あ。い。邪。神。付。ま。り。ゆ。い。よ。災。難。お。こ
す。福。あ。る。と。い。れ。人。の。い。つ。り。又。い。く。朝。早。く
起。く。よ。く。け。し。る。家。い。よ。昔。神。あ。り。給。い。ゆ。り
あ。り。た。福。あ。る。目。小。備。一。富。貴。と。い。と。ま。こ。給
祈。て。ほ。ろ。け。お。こ。る。家。い。よ。悪。神。あ。る。ゆ。い。よ

病はかろう。日々困窮はぬ。只人の盛衰は朝記の
よきと。ねまふありや。古き書ふ多くくのせり。
うねはつるせにとらふべ

一 早水遺髮結佛神先程奉拜家

業早下勤事

朝子く方を清らにすぎ。神佛は親む人を。
うやまふたれい。卯とまよく。心もしつたよまじう
ゆる。人は射しおとす。細工西作よんをの

はく。奇業は出の物也。古き書に。一日のけり
こは。是れあり。一月のころをこい。朝日にあり。二年
のころをこい。まにあり。一生の計は。かまにありと。
又一生の業は。勤ありや。佛神とよく。や
まふたれい。神の威をほし。人の運をそとらり

一人素時致町候高車兼略仕回敷事

ひく。れ人のいり。も。人ある。何い。吾と。う。べ。や
射交細工を。ね。物業。よ。ある。人の。利徳を。あ。ふ
ふ。人。ま。い。け。け。り。福。神。あり。ま。や。て。実。よ。や。ら。い。て。

ち切は侍るべし。もく人じきくゆらんてりた。以後
のちみお井のい。丁年にもべし。一日よりづつ一人は
せおしよども。一年より二百六十人づつめをね。ま
店といひつらうたいた。日ふまへ。業人。又あき店
といひはつらうた。目こに。高うとくちるも。同
もく。困窮とも事うとぶひたり。多にたり
多。難儀ともも。さいふありて。をわく。さぬす
も。きこおのうらうら。同。あつて。ぬよく。つ
すんちるもく。店。あつて。人。を。ち切は侍るべし
そのかり

一御公儀汚觸者勿論外之用事見とて

衆共序を為知不致事者則不為聞矣

一人他かの命さうい。帳面。い。人。と。た。ぬ。次。身
り。中。進。ま。く。せ。べ。し。失。意。し。て。去。り。せ。ざ。ら。う。た。い。
清公儀のさうい勿論。他乃用事。く。う。と。も。い。ら
中。れ。事。も。け。ら。り。が。う。あ。ち。切。の。後。よ。ら。う。付。り
大。き。ふ。ち。ら。う。と。ぬ。ぬ。ら。う。ち。ち。を。う。ら。う。と。う。い
か。う。く。ぬ。も。と。疎。略。よ。と。う。う。い。は

一御用者勿論外之細工共念入始終

共棟梁之者見届可申事

御用者勿論外之細工共念入始終
共棟梁之者見届可申事
御用者勿論外之細工共念入始終
共棟梁之者見届可申事

一面之細工取付候者互仕様見届

一面之細工取付候者互仕様見届
御用者勿論外之細工共念入始終
共棟梁之者見届可申事

かろくも也。ちうれび。人にくらゐ。片うあがう。家のお
中を。積ち各とらう。するれび。おらう。くらゐ。くらゐ。
多分付用。あべし。ちうら。人。とら。あ。ま。ま。徳
を。ら。年。眼。利。あり。や。い。も。終。い。大。換
ある。もの。なり。只。賞。物。い。を。を。付。い。

一 毎日賞物廿分之野菜等至迄

互吟味而可相調事

類の有りものをば。方。関。合。が。毎。日。の。野。菜。ホ

し。見。合。を。を。個。づ。づ。あ。て。物。い。さ。さ。と。新。し。き。
し。た。と。あ。さ。と。瓜。よ。く。知。あ。ふ。べ。し。野。菜。は。夏
中。い。づ。の。日。切。よ。そ。の。日。秋。冬。い。下。並。乃。お。と。余
け。み。と。の。日。を。を。べ。し。ま。ぐ。う。一。日。ぬ。一。錢。は。け。ぬ。
お。い。ぬ。一。年。い。は。三。百。六。十。文。や。が。て。本。係。一
換。乃。換。わ。り。お。い。ぬ。毎。日。五。錢。と。銭。或。い
二。百。文。三。百。文。の。ら。が。い。較。つ。も。れ。び。年。中。い。は
大。分。の。換。え。ま。を。考。へ。て。一。錢。と。ら。も。無。益
乃。後。い。は。う。べ。づ。ら。だ。か。れ。お。く。と。く。考。へ。調。事
人。を。始。末。の。し。た。あ。わ。ら。し。い。て。仕。合。い。日。ぬ

一惣而掛賣堅仕間補事

びしより徳田の商人れげふれたるは安んずつこふ
 ぶら。皆のけ賣とらんちり。げんぎんよやと
 うりはとらんものいあふより相つたて。おれ
 あつ年。みる人のちるころ也。あつるはあま
 又欲ふくして。あふくうらんとあふよゆふ。目
 くらくくなら。却てげふれるや。由るは年中
 益を働さ。汗をかぐ。働と。儲るは物乃令
 給と。をばつけど。いしむけと。びらうくさしく。ら

くりや備。換をしてのる。海ざられたい。いりるはお
 こし。働かた。一生れあさ。さのやうにたりて。
 ろのる。よ義絶とらん年。もくをうたうたり。
 家人の者どもに。給令のあに。ぶたりた令給を
 とうらるとい。益を賣すは。働さ。精は
 物とものを。令給のけういや。あさゆつ。一
 生のうたを。いむらる。よく考へ。知るべし。
 世間乃も代を。えらふ。あの人。いさうく。いふゆら。
 西遊人とつら。先ん給乃。方人と。あ切の賣
 物な。あづを。はらう。て。ほ。あの人。海ざら

きたい。後いそぐ。きまやわらひて。ほろ風俗
 をはぐ。みずまの也。常に回り中へ
 うん。腸目づい。口はち。紫すき。うらうら
 なく。息いよ。なつ。まゑ。な。ゆ。け。い。か。ん
 と。ごん。ま。ぐ。づ。や。ふ。ひ。う。や。く。ち。か。ぬ
 ぐ。や。ゆ。め。面の。を。い。り。り。く。柔。あ。そ。こ。う
 ー。あ。い。ち。ぐ。ゆ。め。先。は。耳。さ。き。こ。ゆ。か。ぬ
 足。い。ち。か。う。や。く。あ。ぐ。そ。ろ。ぬ。わ。ら。ん。ひ。と
 ち。こ。う。へ。い。な。ぐ。づ。これ。あ。て。み。目。か。り
 ー。き。風。の。ま。い。神。入。る。き。常に。あ。さ。か。ま

さ。は。と。お。い。出。る。海。い。あ。の。い。ん。を。も。の。く。ち。で。後。の
 へ。げ。を。さ。ぐ。り。き。し。ろ。き。れ。結。い。と。な。く。な。ぬ。ー
 出。ー。げ。さ。う。う。あ。え。ら。ぬ。ま。何。の。風。俗。わ。ら。え。
 其。れ。が。う。つ。あ。よ。え。ゆ。か。也。志。ん。か。ぬ。あ。の。い。ん。ら。う
 け。髪。の。ま。げ。ゆ。み。き。を。し。も。じ。い。さ。げ。ま。す。し。ど。
 せ。れ。あ。て。ん。が。う。わ。く。ま。い。ん。を。も。あ。り。う
 ら。い。え。い。ゆ。う。そ。あ。く。ら。ら。わ。い。ま。き。ま。也。
 この。う。ら。を。き。を。つ。あ。さ。ら。ゆ。い。ま。い。ん。う。い
 毎。日。あ。ら。う。ぬ。ぬ。信。人。の。破。家。ま。の。い。ら。う。く
 ー。ぬ。さ。く。や。合。身。と。い。ー

家内用心集下

〇七

一常入用之物前夜及夕御支度下仕度

おとこころを多にも。ききたはのり。をけくさ
きは。必^ち迫^ちと。憂^{うれ}ありと。つら。まら。い。む。入。角
の。お。を。い。登^いま。ま。度^い。明日^あ日^あ入^あお。を。い。今日^けの。好^い
い。本月^げ入^い物^ぶを。い。今^け月^げを。い。す。り。中^ち。み。毎^{まい}日^に
ま。ら。ん。を。い。け。べ。き。也。と。い。る。け。と。い。必^ちの。あり。
俄^いに。を。方^かへ。お。細^こく。い。人^{ひと}を。い。あ。り。い。中^ち
い。人^{ひと}を。い。あ。り。又^{また}い。夜^よを。い。く。を。開^ひた。う。ら
い。は。ま。ら。ん。事^{こと}。皆^{みな}。常^{じょう}。い。後^{のち}の。り。を。い。あ。り。

せざりゆへなり。故^ゆり。此^こ事^{こと}。い。け。て。多^{おほ}く。い。り
氣^きが。つ。け。る。い。へ。俄^いに。け。ま。ら。ん。事^{こと}。も。多^{おほ}く。換^か
え。か。く。て。考^{かん}。考^{かん}。も。か。利^り。益^{えき}。み。か。ら。ん。べ。い

一毎月十日廿日廿九日店二階花迄掃

除賣切物書之伴額を覓振下申矣

の。の。ぞ。く。月^{つき}。三^{さん}夜^やづ。花^{はな}の。内^{うち}。ま。で。の。い。づ。け。る
と。い。い。書^か。わ。の。者^{もの}。と。な。ま。さ。ぬ。と。い。う。て。除^ぞ。振^び
の。高^{たか}。わ。い。け。ぎ。細^こ工^{こう}。も。を。い。づ。皆^{みな}。い。う。る。と

ちり。あひそよくかごづけをけい。あまのたかひ
 てしうろくご。取仕舞もよしたのかり
 右すや系。毎夜一遍げ。傍く。さくや。是勤る
 くらひ。風俗を改りて。細工も終つがゆへ。あまのた
 ちあ。終りまか。そのぼくも。安く。安祥め長。
 まごの用し中へ。別上中二巻。九月あり。
 是瓜夜。よみく。ゆを。し。智。あ。も。お。是。も。お。
 日ふま。して。理。後。女。家の。為。身。は。あ。ま。

頓宮笑月女



玉燭明珠。室。満。は。も。暗。黒。は。
 多。の。探。取。と。結。り。だ。一。炬。を。奉。ま。は。
 晰。然。と。て。た。右。攫。ひ。か。め。一。聖。賢。
 傳。車。み。満。も。も。昏。愚。あ。て。い。る。奴。も。
 入。り。年。徒。り。ど。す。教。を。得。れ。ば。眼。然。と。
 して。茶。後。辯。ど。一。斯。笑。月。翁。の。作。
 まる。三。冊。の。南。都。古。梅。園。松。井。氏。
 保。得。く。秘。蔵。を。終。り。を。あ。み。み。ふ。



頓宮笑月女

十三



誠マコトく居家キョウカ日用ニツヨウの一炬ヒトタチたり其明アカサ
 千萬里チマンリといふに及ぶべし世に人の室ムラ
 中ナカを照テラらひては紙彩シサイすまんに切セツし請求キョウモト
 然シカく梓スサガよ登ノボるとんをぐ家迷モウメイの多オホなり
 いろはのあはれなり

己酉冬至日 平安書坊柳枝軒

京師六角通御幸町 茨城多左衛門版行
 享保十五年孟春吉旦

江戸日本橋南二丁目 小川彦九郎



多

し

し

し

し

し

